

第4回

人生のパートナーと生きる

講師

葭内 ありさ

きょうは、結婚（婚姻）を法律の視点から見ながら、理想のパートナーのあり方について一緒に考えましょう。憲法24条に規定された「男女平等」の理念や、親権や離婚、ドメスティック・バイオレンスなどについて学ぶことで、よいパートナーシップを築くにはどのようなことが大切か、見えてくるでしょう。

◆◆◆ きょうのキーワード ◆◆◆

日本国憲法 第24条

明治時代には、旧民法（明治民法）の「家制度」により、日本の歴史上でも、女性の権利がかなり制限された時代でした。しかし、第二次世界大戦後、GHQスタッフとして日本国憲法の草案作成に尽力した米国人女性のベアテ・シロタ・ゴードンさんにより、当時、世界でも例を見ない「男女平等」の規定を含む憲法24条が起草されました。

憲法24条では、結婚（婚姻）が**両性の自由な意思に基づく**ことを明確にしており、結婚が**夫婦の協力**によって維持されなければならないとしています。また、配偶者の選択や財産権、住居の選定、相続、離婚や家族に関するそのほかの事項について、「**個人の尊厳**」と「**両性の本質的平等**」の理念に基づき制定する、としています。

現行民法は、この憲法24条の理念のもと、1947年に改正され、女性の権利を制限していた「家制度」も廃止されました。

親権と離婚

日本では、子どもが成人するまで父母が共同で親権を持ちますが、離婚すると、一方の親が単独で親権を持ちます。しかし、離婚して親子が別々に暮らすことになっても、扶養や相続など、親子の法律上の権利や義務は一生、変わりません。親権を持たない親も、子どもが成人するまで、養育費を支払う義務があります。日本の離婚は、裁判離婚は少なく、話し合いで決める「協議離婚」が9割を占めるため、主張や力の強い側に有利な条件での離婚となることがあります。子どもの福祉の観点から、海外では離婚後も父母が共同で親権を持つ国も多くあります。

memo

民法改正の動き

民法は時代に合わせていろいろ改正されてきました。近年では、女性の社会進出の広まりに合わせて、「夫婦は同姓」という規定を「同姓または別姓を選択できる」などと改正する「**選択的夫婦別姓制度**」についても民法改正の検討課題となっています。また2022年4月から、成年年齢が18歳に引き下げられるとともに、結婚の最低年齢についても、「男女とも18歳」となります。

パートナーシップを築くために

異なる環境で育った者どうしが出会い、生涯を共にしたいと一緒に生活を始めると、意見の不一致が生じることがあります。その時に重要なのは、コミュニケーションを十分にとり、解決のためにお互いが歩み寄る工夫や努力をすることです。お互いの価値観や目標を認め、協力していけるパートナーシップを築いていきましょう。

1 憲法24条とは？

- ◀ あなたは、選択的夫婦別姓について、現行民法と改正案のどちらに賛成するでしょうか？
また、その理由を書きましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

memo

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

2 親権と離婚

離婚の原因のひとつでもある、「DV」について、考えてみましょう。
あなたが、DV だと思えるものをチェックしてみましょう。

ドメスティック・バイオレンス（DV）チェック

- 付き合っている相手が異性の友達と話をするとうねになる
- 自分の意見と違う意見を言うと認めない
- 「私（俺）が怒るのはお前が怒らせるようなことをやったからだ」と責め、悪かったと言わせる
- メールや LINE を送りつけて、すぐに対応しないと怒る

解説

実はチェックした4つとも、いずれも、被害を受けた方が恐怖を感じたり、精神的に支配されてしまうと、精神的な DV になる可能性もあります。

DV は、婚姻関係にある夫婦だけではなく、恋愛をする高校性にも関係があり、「デート DV」と呼ばれています。どんなに親しい間柄でも暴力は許されません。DV は、当事者以外からは見えにくいことも多くあります。

もし、自分や周囲の人が DV などの問題に巻き込まれたら、すぐに相談しましょう

- ★ DV相談ナビ 電話：0570-0-55210（全国共通）
- ★ DV相談+（プラス） 電話：0120-279-889（メール含む24時間対応）
※チャットは12時～22時対応
（新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う外出自粛や休業などにより、DVの増大・深刻化が懸念されることから2020年4月より緊急的に実施）
- ★ 配偶者暴力相談支援センター
各都道府県に設置されていて、相談業務のほか、自立やシェルターなどの情報提供や援助、カウンセリング、緊急時の一時保護などを行っている。

memo

きょうのまとめ

～理想のパートナーとは？～

きょうの学習を通して、どのような関係をパートナーと築いていきたいか、まとめましょう。

Blank writing area with horizontal lines for summarizing the lesson.

memo

Large memo area with horizontal lines for additional notes.

わたしたちの未来 ～ SDGs 17のゴール ～

目標5 ジェンダー平等を実現しよう

今回は、SDGsの【目標5:ジェンダーの平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う】に関連して、「女の子の早すぎる結婚」問題について取り上げます。発展途上国では、貧困な家庭に生まれた未成年の女の子たちが、望まない「早すぎる結婚」をさせられている現状があります。理由には、女の子が社会的に低く見られ、稼げないと見られていることや、幼く結婚させると持参金が少なく、親が早すぎる結婚の悪影響を理解していないことなどがあります。このため、教育を受けられずに自立する機会が奪われ、10代の未熟な体で妊娠・出産するために健康を害してしまうことがあります。

5 ジェンダー平等を実現しよう



早すぎる結婚をせずに教育を受けると、女の子自身にとってよいだけでなく、子どもの死亡率が下がるなど、次世代や家庭、地域にもよい影響があり、貧困の負の連鎖を断ち切ることができます。番組で紹介した国際NGOプラン・インターナショナルの支援を受けて自立することができた女の子たちが、地域の女の子を救う現地スタッフとして活躍している例もあります。



この問題は、SDGsの【目標1：貧困をなくそう】や、【目標3：すべての人に健康と福祉を】、【目標4：質の高い教育をみんなに】といったゴールとも関連しています。改めて17の目標どうしのつながりや、どうしたらジェンダー平等を達成できるのかについて、考えてみてください。